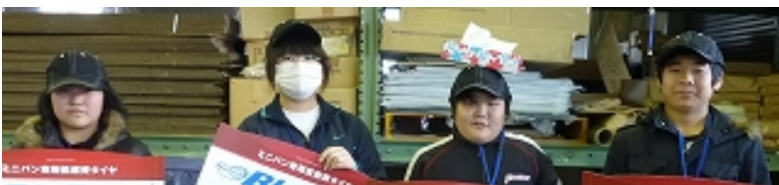


波紋



Ripple

No. 321号



職業体験学習

わくわくチャレンジ

2月6日から9日までの4日間、名南中学校より4名の2年生が職場体験学習に来社されました。

みなさんには本社工場でのPOPの製品梱包作業をしていただきました。

中学生には不慣れな立ち仕事でしたが、無事に4日間出勤拒否することもなく終了しました。

学生の子とは日を重ねるにつれ会話も増え、

「1個作ったら百円ぐらいはもうかるんでしょ？」

と聞かれたパートさん。

「そんなにもらえる仕事なんてないよ。」

孫に諭すように優しく伝えていた姿に少しだけホッリさせていただきました。

しかしこれを聞いてなのか、残念なことに、将来製造業やモノづくりを志望する子はいませんでした。来年はどんな中学生が来るのか楽しみです。

※職場体験学習とは、生徒が直接働く人と接することにより、また実際の知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解してもらおう意図があります。そして生徒が主体的に進路を選択決定する意志、意欲など培うことのできる教育活動として、重要な意味を持っています。

さらに地域が一体となつて生徒を育てていこうとする気運が高まること、企業も地域に貢献することができるようなど、職場体験学習には広範な教育効果を期待することが出来るものです。

大石

中日新聞の地域情報誌、「南ホームニュース」(ナンタン)に高校生と地元企業が協力して生み出した製品と交流を記事(546号)にさせていただきました。(24.2.11)

次のページを **チェック!!**

人物の評価

社長 森 直樹



最近若干、日が長くなってきたと感じます。名古屋は年に数回雪が積もるので、あと1回ぐらいは降り積もる程度の雪が来るのではないかと思います。雪の機会が少ない分だけ積雪時の運転は不慣れなので毎回緊張します。

すでに賞与の時期は終わりましたが、弊社では賞与・昇給の査定は、役員による査定です。営業は、その期の数字が大きく影響しますし、またリーダー、マネージャーといった役割に応じた動き方が出来ているかどうか。内務であればその仕事の正確さやこれまでの作業の改善が出来ているかどうか、といったことが判定の基準となります。

しかし、これはあくまで一面的な部分で判断していることであり、評価される人の全体を見てはなりません。つまりその人の100%正しい評価と言えるわけではなく、あくまでその人の見えている仕事の部分、上司からの見える部分での評価ということになります。もちろんそれ以外の見えない部分は見ようが無いのでいかんともしたいですが、人間には先入観があり、数値化できない部分についてはその人自身が持つ以前のイメージによって左右されてしまうものだと思います。そのためにも主観的ではなく客観的な視点での評価、そしていかに細かく一人一人と接しているかということが、より自分からだけの目線に偏らないその人の見方になります。

「人から見た自分」と「自分が思い描いている自分」には意外と大きく異なるイメージが描かれていた、ということは私もよく経験があります。だからこそ直接話し合ったりしなければ正しい見解は得られないということでしょう。もちろん外から見た評価は一面的な部分ですが、自分のイメージと異なるということは、そのギャップを生む何らかの原因が自分にあるということです。自分を様々な角度から見直すこと、客観的な視点で自分を考えることが出来れば、ひいては自分自身の仕事も周囲のことを含めて配慮した進め方が出来るようになるのではないのでしょうか。意外と自分の事が一番見えていないので、周囲に自分自身がどう見えているかを教えてくれる人がいれば、成長するチャンスが多いということになります。

私自身、周りにもっと自分のことを理解してもらえようように言葉を変え、会話していく事を増やしていきます。



昨年6月のファッションショーで作品を発表。長谷川さんがモデルを務めた

南区にある桜台高校のファッション文化科は、全国トップレベルの専門学科。毎年6月には、生徒主体のファッションショーを開催しています。同校3年の長谷川菜美さんも昨年春、「テクノ口

ショー作品に素材提供

ジーをテーマに、クラスメイトの鈴木恵さん、荒谷留衣さんと作品作りに取り掛かりました。しかし、思い通りの素材が無く悩んでいたところ、学校の先生に地元企業の森松株式会社を紹介され



作品作りに一生懸命取り組む長谷川さん

たといいます。プラスチックやビニールの素材・製品を多数扱う同社の会長、森信之さんは、同校OBという点ともあり素材提供を快諾。集光ビニールという光る塩ビ素材にひとめぼれした長谷川さんは、試行錯誤を重ね立体的な花のモチーフを作り出し、見事作品に生かしました。

ものづくり南区

産学連携製品「サクラ」誕生



プラスチックのデパート 森松 & 桜台高

ファッション文化科

55年の実績を持つ地元企業
高校生の若い感性がコラボ

工場や事業所が多く存在し“ものづくりのまち”として知られる南区。今回は、地元企業の森松株式会社と、地元にある桜台高校が協力して生み出した製品と、その交流の様相を紹介します。



世代を超え和気あいあいと意見交換する皆さん

「昭和27年の創業以来、プラスチック資材などの卸を主な事業内容としていますが、オリジナルの製品作りにも取り組んでおり、さまざまな意見

森松と桜台高が生み出した「サクラ」は、準大賞

という受賞をもたらしただけでなく、企業と学校の

学校と企業の絆つなぎ

の触れ合いを深めるきっかけにもなりました。



「交流を続けていきたい」と森会長

や情報を収集することも必要になっていきます。10代という若い世代と交流する機会はなかなかないので、今回を機に学校とのつながりができ、本場にうれいいですね」と森会長。

森松株式会社

【住】南区丹後通5-18
【問】☎ 612-8831
【HP】http://www.morimatsu.net/

「第20回 元気が出る森松展」
10月11日(木)・12日(金)開催
★どなたでも見学出来る展示会です



何度も意見交換するうち、親子のように仲良しになったという安井さん(左)と長谷川さん

必要という固定観念があつたので、長谷川さんのアイデアに衝撃を受

高校生のアイデア製品化

長谷川さんが作り出した花のモチーフは、正方形の軟式ビニールシートに切れ込みを入れ、その切れ込みに四辺の角部を入れるだけの簡単なもの。

「シンプルなものですが、軟式ビニールの特性をしっかりと生かしています。ビニール素材を立体的にするには何らかの加工が必要という

「サクラ」はシンプルかつ斬新さが評価され昨年7月、学生、会社員、プロデザイナーなど計331件の応募作品の中から、見事準大賞に輝きました。

簡単なおしゃれな花形トレーが作れるビニールシートは「サクラ」と名付けられ、全国の塩ビ関連団体が取り組んだ初のイノベーション・イベント「塩ビものづくりコンテスト2019」に出品されました。

長谷川さんは「暗い所じゃなくてもキラキラ光る集光素材を見て、面白いものを作りたいと思いました。試行錯誤を2カ月ほど繰り返しましたが、自分で思っていたよりもいい物ができ、森松さんのおかげで多くの人に知ってもらえることができうれしいです」と話していました。



産学連携で誕生した「サクラ」

あの頃の森松～

あの頃は・・・そんな想いを綴っていただきました。

伊東 郁二（特販部）



昭和61年4月1日入社
今の要工場2階が事務所になっていて、当時の社長（現森会長）を筆頭に営業部3島・森松産業1島・製造及び配送部1島と、狭い中にたくさんさんの社員とパート事務員が詰まっていた。島の間は人がひとり通れる程度の通路で仕切られていたが、和気藹々とした雰囲気懐かしい。とにかく若い人達がたくさん在籍していた。営業マンとの連絡は、ポケベルと営業無線が主流。「Aさん応答ください・・・」と、事務所の無線本部から各営業車へ連絡していた。当時の森松マン平均年齢は27歳位だったと記憶するが、皆若かった。

行事・活動としては、テニス・野球・スキー・イカ釣り・船釣り・家族忘年会・森松マン1泊研修会・読後感・襖（みそぎ）・波紋など、消滅してしまっただけのものもあるが、未だに継続されていて「森松の伝統」になっているものもある。

船釣りでは、船酔いで帰りたくても帰れない試練・真冬の襖での楽しい思い出・スキートの帰りに皆で食べた「ベトコンラメン」・ナゴヤドームでの野球の試合・・・。夕方、「20人前の出前が届く」。「楽しい楽しい全員残業」。思い出しながら書いていくが、どれもこれもがすごく懐かしく、「森松マン」。「若いパワー集団」だったんだなあ・・・と、痛感する。

平成2年に新社屋となり、事務所は広々とゆったりと環境が変わった。無線・ポケベルから携帯電話へ。「若手会」から「あすなる会」へ。手打ちの「波紋」からホームページで配信へ。手書き「日報」からパソコンに入力し、サイボウズを介して社員の日報やスケジュールなどがどこにいても見られる様に、情報が共有出来る様になった。懐かしい思い出になってしまったこともたくさんあるが、形を変えて未だに継続していることもたくさんある。時代の流れに沿って変化していることを改めて実感した。「あすなる会メンバー」を中心に、若いパワーに期待し、いろいろなことに挑戦・経験して欲しいと思った。しかし、みんな、歳を取ったなあ・・・。

【インドネシア旅行】

稲葉友昭（産業部）



昨年10月にインドネシア（バンドン）へ旅行に行きました。インドネシアは暑いというイメージがありますが、バンドンは首都のジャカルタから東南へ200km離れたところにあり標高が200mのため雨期・乾期はありますが年間を通して気温は18℃～28℃のため、過ごしやすい所です。目的はゴルフでしたが、バンドン市内にある日本人の経営する企業三社の工場見学もさせてもらいました。マッサージチェアのカバーとか白衣の縫製をしている工場、カーペット工場、織布工場の三社です。日本でも見学したことがない業種の工場なので大変興味がありました。三社とも日本人は数名で従業員は現地人です。工場内はいずれも想像していたよりも、はるか綺麗で整理整頓されており、品質管理も徹底されています。特に縫製工場の品質管理には驚かされました。縫製品に針が混入することは絶対にはあってはいけません。この縫製工場では針を管理する専任者を置いていました。針を交換する場合は古い針と引き換えに新しい針を渡す、針が折れた場合は折れた部分も探して持つていかないと新しい針を渡さないとといったシステムです。縫製ではこれくらい管理は常識かもしれませんが、こういった管理方法を参考に品質管理を徹底していかなくては競争には勝てないと思いました。



3月の予定

2日 (金)	伊東義弥さん誕生日
3日 (土)	第1土曜日休み
10日 (土)	第2土曜日 出勤日
12日 (月)	成瀬勝英さん誕生日 松井宜和さん誕生日
17日 (土)	第3土曜日休み
20日 (火)	春分の日
23日 (金)	生産会議 12時～13時
24日 (土)	CS向上会議 14時10分～15時 第4土曜日 出勤日
30日 (金)	久保田裕子さん誕生日
31日 (土)	第5土曜日休み



出走メンバー



伊東さん



大石さん



小原さん



季節も3月に入りようやく春めいた気温となってきました。私にとつて3月のイベントといえば、3月11日に名古屋市内で開催される「名古屋シティーマラソン2012」です。昨年と同様に参加しましたが、今年から「名古屋シティーマラソン」のエントリー方法も変わり「ドキドキ」しながら応募結果を待っていました。今まではインターネットで先着応募順にエントリーすれば良かったのですが、今年からは全応募者から平等に抽選となりました。私は無事当選したので、落選された方々の分まで楽しく、そして完走したいと思います。

【名古屋市シティー マラソン2012 概要】
開催日…3月11日(日)
男女ハーフマラソン、男女10km
10時10分スタート
10km||ナゴヤドーム(瑞穂公園陸上競技場(名古屋市瑞穂区))
男女10km(制限時間は1時間40分)

小原 龍一 (営業部)



編集後記

編集部からのお知らせ。
4月号より、発刊日を28日と致します。そのため、原稿を毎月第2金曜日までに入稿して戴きますようご協力願います。

編集長



森松株式会社 社内報

No: 321号

平成24年3月1日発行

森松 HP

<http://www.morimatsu.net/>

オーダーマートのご注文はモーリンモールで!

<http://morlinmall.jp/index.html>

編集者
大石 耕平 松井 宣和
伊東 義弥 小坂 美香
小原 龍一 伊藤 雅典
創刊号: 1985年7月

